

・・・雨でも休まず、219回、220回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1、8月4日(第一土曜日); 小原本陣の森・担い手育成、技術向上
 - * 地域と協働森林整備の兆し、参加費400円
 - *
 - ・ 定例活動2、8月19日(第三日曜日): 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
 - * 今月はFSC1年目維持審査、参加費400円
-
- ・ 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
 - ・ 服装: 汚れても良い服装、着替え、長袖、夏は黒色を避ける、滑らない足元
 - ・ 持参品: 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器(碗・箸)飲料水
-
- ・ 注意事項: 危険管理・救急体制: 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です

地球の森林減少: その統計は、間違っていると言って下さい。

1992年のリオ環境サミットでカナダの少女が「砂漠になった場所にどうやって森を蘇らせるのですか。直す方法が分らないのなら壊すのは、もう止めてください」と訴えた結果、1993年にFSC(森林管理協議会)が発足したと、以前に書いたことがあります。

10年前、	400万 ha	左の数字は、年間の地球の森林減少面積だそうです。私たちの
6年前、	900・・・	周りには、荒廃が進んでいるものの豊かな森林で囲まれています。
2年前、	1200・・・	す。だから、何か統計がおかしいのではないかと信じ難い気持ち
今年、	1400・・・	でした。

先日、話題の米国ゴア元副大統領の編集した映画「不都合な真実」を見ました。内容は、地球温暖化が主題でした。一部、森林減少が取り上げられており、米国防省の衛星が低速度で撮影した世界の様子の写真がありました。これによると地球の森林減少地域は、メキシコからほぼ南米全域とアフリカの2/3, 東南アジアとオーストラリアの北部が赤く染められているのです。主に焼畑農法に因るそうですが、違法伐採や先進国によるパルプ用の大規模伐採も原因になっています。文字では半信半疑でも、視覚で確認できたことで酷いショックに見舞われました。森林減少だけでなく温暖化も、もう待った無しです。ノンビリと森林活動は“楽しい、癒しになる”などと言っておれない気持ちです。気負って見てもどうにもなりません、今の活動を継続し、訴え続けることが当会の使命・責任とあらためて思っています。(関連記事・裏表紙: 地球温暖化)

参加9名、基地廻りの整理・整頓(残材処理、下草刈り)作業に入る。11時頃から、猛烈な雨となって作業は中止。急遽、JR 駅前・桂北公民館2F 会議室を借りて4時まで、優先と思う事項に付いて意見交換をした。意見交換の主な内容は、以下の通り。詳細は、HP で公開する。

- 1、FSC の要求する「急斜面の基準、作業ルールづくり」・・・関連して、危険管理に付いて意見の交換。
- 2、小原本陣の森：現状を事務局から報告後、先月、県北事務所森林課のご指導を参考に施業方針を検討・意見交換。

・討議結果：

イ、景観・生態系に目配りしながら、計画的な生産林を目指せば、良質の材が出来る筈。良い値段で売れる経済性のある生産林が具現化できれば、自然に放置林の所有者と協働できる。

ロ、中里山に入るには、共有林権利者と協働して経路をつくる。

- 3、「(財)オイスカ」から以下の要請が来ているが、どう応えるか。

要請内容：企業派遣の環境(森林)担当者を“緑のダム”が受皿になって養成できないか
討議結果：イ、今後、増えそうな有意義にして面白い要請だ。

ロ、受け皿になるために、内部体制をシッカリ固める必要がある。

ハ、“緑のダム体験学校”にその芽がある。しかもかなり、ハイレベルに達しているのではないかと。学生連合ノバにも、期待できる人材がいる。

- 4、その他

- ・石綿さんの“木材搬出システム・WS”をモノにしたい：研究を積み上げることとした。
- ・東林業さんへの作業指導依頼：技術向上の為に指導を受ける。詳細を詰める。

- * 意見交換会の感想：雨でも休まず・・・、この10年間、初めての雨の日の勉強会でしたがこんな勉強会も良いなあ～。内容の濃い4時間でしたが最後は、私はフラフラでした。森に来て作業できなかったことに、やや欲求不満(石村)
- * 意見交換会后、有志は引き続き角屋会議に出席したため、帰宅は何時もより遅くなった(川田)

* 小原本陣の森：施業計画

写真は、当会がこの森に入るようになって、地元の私有林所有者が整備した尾根近くの1年を経過した森の状況である。数年前、ここを通った時と見違える美林に変身して、木がスクスクと育っている。7日の意見交換会で「景観・生態系に配慮しながら生産林を目指せば、景観林・生態系林



午後は、優先事項を選んで意見の交換をした。



は自ずから達成できる」と仮定した。未だ、生態系のモニタリングはしていないが、少なくとも景観林の具現化は、できているのではないか。新たに入る予定の共有林で記録を取ってみたいと計画している。

若柳嵐山の森 7月15日(第三日曜定例活動日) 報告・石村

大型台風4号がこの日、直撃すると新聞が報道している。この10年、1日

も“雨でも休まず・・・”を実践してきたが、「FSC 認証林」で事故でもあったら世間は「非常識な森林NPO」と糾弾するに違いない。だが、森仲間は、台風でも、必ずやって来る。その対策をどうするか。当日朝・7時半、暴風雨の中、森に向った。

昨日、非難場所として、JR相模湖駅前・桂北公民館を予約した。

駅集合指定の9時15分までに19名が集まった。暴風雨は激しく続いていた。列車も運休するかも知れないと駅務員は言った。駅構内で朝礼をし、暴風雨対策をする組と待機の公民館組に分かれて行動した。暴風雨対策組は、数人ずつのグループに分かれて危険箇所のチェック、基地では屋根や囲い板、道具類の飛散防止などに忙しかった。11時過ぎに台風の目に入ったのか、風雨はパタリと静かに収まった。12時には台風対策を終了し午後には全員、公民館に集まった。

昼食を挟んでビデオ「白神に棲む」、「森を創る」を鑑賞した。午後、各班・森林整備班+その他の班、望星の森班、学生連合班、に分かれて夫々の課題の話し合い、木工品試作などにも取り組んだ。

日大桜井教授は、「滅多にめぐり合えない暴風雨時の山の観察に来ました」と言うことであったが、朝だけの暴風雨で、この課題は空振りに終わったようだ。

活動規定の3時半まで夫々、意義ある台風時の活動になった。当会は常に現場活動を優先するために“雨でも休まない”。この日も有意義にこれを実践できたと思う。

溜まっている事務仕事のため、カドヤ会議(活動後の一杯飲み会)は欠席したから、何がカドヤ会議で話し合われたかは知らない。16日朝刊で「連休の足ズタズタ、新幹線3万に影響」と出ていた。

* 若柳・嵐山；FSCの森：1年を経過した整備林

木が老化したり、病気などで弱ってくると樹頭が丸くなって、葉が茶けてまばらになると聞いていた。此处は100年程度のスギ林で整備前は、樹頭が丸くなって枯れかけているように見えた。

小原町の小林さんの森では、200年杉があるので疑問に思っていたが昨年、除伐・間引きして林全体に光が入るようにして1年半を経過した今、写真のように木々は生き生きとした様子を見せ始めた。

また、嵐山では巨大に成長して元気のある木は色艶も良く、銘木として取引される。この森の杉が、“銘木・若柳杉”として出荷される日もあるだろう。

最近、小原の森で小林さんとチョコチョコ会うが小林さんは「巨木に会うと、自然と頭が下がって森を放って置けなくなるんだよ」と言っておられた。美しい森は、人間を敬虔な気持ちにもさせてくれる。



陽が入るようになって木が生き活きてきた。

今は、利益にならないかも知れないが、十分に手入れをした森の木は100年後には、一本何百万円の価値ある木に育っているだろう。目先の損得を考えず、自分の子孫の為に経済的にも環境的にも条件を満たす方法があるのではないか。

学生連合・Forest Nova :活動報告

報告 Forest Nova 副代表 滝沢 康至

はじめまして、私たち Forest Nova は“学生だからこそ出来る森林再生・保全を目指す”を理念とし、森林で活動している全国の学生をネットワークしていき、いずれは日本の森林を守れる団体にしていきたいと思っています。

とは言っても、現在は東京薬科大学、信州大学、麻布大学の学生8名が運営メンバーの小さな組織で、まだ具体的な方向性は固まっていませんが思いは強いです。

現在はOn the Job Training という形で緑のダム北相模に大変お世話になっています。先月に行われたチェーンソー講習会では、指導頂いた三菱キャタピラーの長谷川さんの言葉では周りに対して“ひやり”や“はっと”した事は常に大きな声で知らせることを怠ってはならないと言われました。作業中は常に危険がつき物ですが、“ひやり”や“はっと”と思ってもそれを発せず、うちに留めがちです。そういったことをミーティングで共有していくことが事故を未然に防ぐことに繋がるのだと改めて思いました。

- * 21日に企画した日帰りサマーキャンプは事故なく無事に終えることが出来ました。ご支援頂いた、みなさまありがとうございます。結果は来月報告できればと思います。

報告 1、古道調査

国交省相武事務所から、甲州古道（国交省の名称は“美しい道づくり：甲州夢街道”）の高尾～藤野間の調査・夢街道企画書の提出を求められた。これまで5年間に亘って、いろんな角度から歩いて来たから“喜んで”と引き受けた。



4年前、この間の「底沢～小原」の藪の中に古道が残っているらしいとの情報を得ていたから、得意の“頭から藪に突っ込む”方式でそれを探り当てていた。即ち、3ヶ所で分断しており3ヶ所で痕跡が残っている。分断と痕跡部分を地図の上に落とししてみると藪の中で見えたものと、藪の中では見えないものが見えてきた。これによると高速道路の建設と鉄道トンネルの影響を受けて古道が分断していることが推定できた。そこで分断箇所の対面の山に登って、その推定を確認してみた。

整備された高速道路、鉄道、国道を車や列車通過している限り急峻な地形には気付かない。だが歩いてみると別の世界が見えてくる。分断箇所は、殆ど垂直に近い山腹を削り取り高速道路を

通し、その下を鉄道トンネルが通り、それに沿って国道20号線（現・甲州街道）が走っている。分断現象は、高速道走行車・列車・国道走行車で間断なく微震が続いているせいだと思う。その下は、底沢川と相模川の合流点になっており千尋の谷底と言う地形だ。此处は白亜紀・古第三紀・小仏砂礫層。知らず知らずに古道調査が地質・地形調査に変わっていた。国交省には抜かりは無いと思うが、分断部分のズリ落ちていく斜面状況を写真に取って報告した。

古道を歩き回っていると、古い道が実に合理的に出来ていることに気付く。平地でも急峻な山間地でも何世代にも亘って積み上げた歩く道を作って来た人間の知恵と工夫が見えてくる。その道筋に生活の歴史を記した古文書や文化・伝統・芸能・技術が残されている。上記の谷あいには街道一の難所だったに違いない。「甲州古道を残す活動」は、今を生きる者の子孫への責任と思うようになっている。

報告 2、政策審議専門委員会：傍聴・・・(神奈川県・水源政策・県民会議)

7月6日、午後6時～8時の上記、専門委員会を傍聴した。県企画部が政策立案し、有識者として、環境問題に専門的に取り組んでいる実学の大学教授5名による第1回目の委員会が諮問形式で進められた。第1回は、水源環境のモニタリングをどのように進めるかであった。県は実に細部に亘って準備をしており、その精密さに驚嘆した。委員側の諮問も鋭く予定の2時間は、アツと言う間に15分を超過して終了した。このような白熱の討議を積み重ねれば、必ずや良い結果に繋がるだろうと大いに期待できるものであった。

神奈川県では、情報公開と言う方法で責任の所在を明確にしようとしており、先進的・独創的で大歓迎だ。だが、重要な課題が欠落しているように感ずる。毎年、約40億円弱、20年間で750億円を投入した結果、森林の自助努力による保全・再生の仕組みは何か。そこが見えない。即ち、大きな資金を投入した(in-put)結果、問題解決に繋がる(out-put・out-come)道筋が見えない。企業の環境の取り組みは、環境負荷の引き下げ技術や、新規技術開発が環境破壊阻止の数字に表れる結果を出している。即ち、営利を目的とする企業の資金投入は、成果無しには責任が問われる。その辺のところ、行政の取り組みはどうか。

*** 市民事業等審査専門委員会：聞き取り**

他の会議と重なったので傍聴出来ず、当該委員会出席委員の一人から委員会の状況を聞かせて頂いた。(7月11日、午前10時から12時、県庁に於いて。主な論点は以下の通り)

- 1、県民との協働意欲をどのように引き出し、どのように協働するか。
- 2、その為の要求と意欲は何処にあるか、ヒヤリングする。
- 3、対象(協働する団体・活動内容・活動の目的・期限・金額など)は何か。
- 4、個人・企業にも門戸を広げることを検討
- 5、参加者・団体を育てる視点も持つ。
- 6、その他、傍聴者の意見
 - イ、情報の提供、調査・研究も対象にしたい。
 - ロ、県外活動(上流域など)も検討して欲しい

.....

以上の内容から、政策審議専門委員会に負けない内容で討議された雰囲気伝わってくる。そこで、改めて政策全容・12事業を読み直してみた。素晴らしい内容だと思う。先で述べた、「in-put ~ out-put ~ out-come」の道筋が見えないのは不満だが、始まったばかりで改善されるだろう。県民会議が良く機能すれば20年後には、悪評の縦割りシステムを解決する新しい行政の在り方神奈川方式が生まれ大方の注目を集めるだろう。それを形にする責任が県民側にもある(石村)



神奈川県資料

かながわの水源地環境の保全・再生をめざして、より引用

*** 上表を熟視して見えて来た事がある。**

県は先ず、政策と事業を県民に提案した。県民は、その施策が効果あるかどうか、10と11で評価し、12で施策を見直し県に差戻す。県は、それを実行に移す。即ち、県民は自らの判断で、計画し実行し評価する事を行動に移すことになる。既に、県民は悪評の縦割り行政の改革に県と協働して着手しているのだ。賽は既に投げられている。

報告 3、活動仲間・鈴木なお子建築士が出展している・・・住宅展示会見学

会員の一級建築士の鈴木建築士が、国際展示場・ビッグサイトで出品したので、楽しみに見に行った。耐震技術とか住宅メーカー、商社の広報が幅を利かせて国産材の広報・情報は少なく、一人気をはいていた。鈴木さんは、上流木材生産地山梨の森に入って、様々な仕組つくりに取り組んでいる。神奈川の森には、期待に応えられる材が得られないからだろうか。

宮崎の諸塚村のシンポで知り合った藤原隆さんから、林業の現状動向をニュースレターで知らせて頂いているが、14日付けの記事では国産材取引額は前年比105%と好転している。鈴木建築士のような働きがもっと活発にならなければ、本物になれない。もう一つ気掛かりは、わが国の違法伐採材の輸入額は、世界3位だとの事である。

アンケート回答：第19回：環境への配慮

FSCは、森林管理を「社会・環境・経済」三本柱で構成している。当会は社会との協調の為に当会に対するアンケートを行いました。FSCは、当会がアンケートの応えられる活動を求めています。

質問：誰にでも簡単にできる調査マニュアル書が欲しい（活動会員）

回答：環境評価・調査を「簡単にできる」かどうかについていえば、そう簡単ではないとおもいます。大分類として掲げるなら一つの事例として以下のようになります（高知県の場合）

- 1、自然環境の良好な状態の保持 ：大気・水質・土地
- 2、生態系・動物・植物・生態系 ：動物・植物・生態系
- 3、人と自然および歴史・文化の保全：自然との触れ合い、景観、歴史的文化的遺産
- 4、環境負荷 ：廃棄物・温暖化

当会は、森林NPOですから、「若柳嵐山の森・小原本陣の森」の特徴を掌握し、どのような森林管理をするか方針を立てた後、上記の1～4を睨みつつバランスの取れた調査表をつくらねばならないでしょう。

当会は、日本大学の桜井教授のご指導でモニタリング(定領域環境の経年変化)を始めています。また、バッファゾーン(環境保全地域)の特定と保全ルールづくりを始めただけです。これらの作業を通じて、知識と経験を積み上げ是非、「調査マニュアル書」を作り上げたいと思います。因みに、「若柳嵐山の森」は、里山交流の森として、「小原本陣の森」は、担い手育成・技術向上の森と位置付けています。

更に「小原本陣の森」は、経済性を生み出す生産林を目指そうと言う議論も出始めましたが、その活動方針によって「調査書」の内容も異なってきます。それにしても、楽しい宿題を頂きました。

地球温暖化：CO2問題は、更に深刻。

日本経済新聞 2007年7月4日の記事
ウェブ会報では省略します

記事の内容はこちらから

<http://eco.nikkei.co.jp/news/article.aspx?id=2007070404182n1>

人類が生活を維持するために排出するCO2の量は年間、約60億トンである。これを海水に溶かし込む量は24億トン、植物による二酸化炭素の固定量は23億トン。

$60 - (24 + 23) \text{億トン} = 13 \text{億トン}$ ----- 毎年13億トンが地球上に蓄積されていることになる。今の人類の営みからCO2排出量を13億トン減らせば、温暖化は止めることが出来るということだろうか。23 - 13 = 10億トンと言う生活は、今から約100年前、明治時代の生活だと言われている。森林の減少阻止は急務であるけれども、CO2排出量の減少は更に、急務だと世界中で取り組まれている。

「不都合な真実」でゴア元副大統領は、京都議定書を降りたブッシュ政権を激しく非難している。
.....

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと.....
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定非営利活動法人緑のダム北相模
事 務 局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林3 - 35 - 9
発行人 : 石村 黄仁 T&F 03 - 3411 - 1636
H P : <http://midorinodam.jp>
E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター)、セブーンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金 神奈川建具組合